様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ４ 月 ２２ 日現在

機関番号：１６３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０８０４

研究課題名（和文）里耶秦簡・西北漢簡と実地調査による秦漢地域社会の研究

研究課題名（英文）Studies of the Qin and Han Local Society based on the Liye Qin Slips, Han wooden Slips and Field work

研究代表者
藤田　勝久（FUJITA, KATSUHISA）

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：１０１８３５９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国古代国家と地域社会の特質を解明するために、新出の出土資料とフィールド調査の情報を積極的に取り入れ、つぎの３つの方面から考察した。
１は、『史記』『漢書』の再検討と史実の復元である。２は、主要な出土資料が発見された長江流域と西北地域のフィールド調査をおこない、地方統治と交通との関係を考察した。３は、秦代の里耶秦簡と、西北地域の漢簡を中心として、木簡にみえる情報処理の手順を分析し、地方行政の運営と情報伝達のシステムを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study explains the special characteristics of the ancient Chinese state and local society as based on the materials of recent excavations investigated under the following three aspects: (1) a comparison of the duplications in the Shiji and Hanshu, (2) a study of the relationship between local administration and travel in the Yangzi Valley and the Northwest Area based on field work; and (3) a clarification of the system of the local administration of travel and information based on the Liye Qin Slips and Han wooden slips in the Northwest.

研究分野：人文学

キーワード：里耶秦簡　漢簡　秦漢史　地域社会　文書行政　交通システム　情報伝達　『史記』

１．研究開始当初の背景

（1）中国の秦漢時代は、伝統中国の基礎が成立した時期であり、これまで国家と社会構造や社会のあり方に関して、中央官制と法制史や、郡県制の行政制度、税役制度の方面などで優れた成果がある。また近年では『史記』『漢書』の文献史料に対して、出土資料を利用した研究が進んでいる。しかし秦漢統一国家の制度に対して、国家と社会を結ぶ郡県制という場において、その地方官府の具体的な運営や、中国の風土にねざした地域社会の実態には、まだ不明な点が多い。この点を、出土資料を利用した『史記』『漢書』の再検討と、新しく公表された出土資料の積極的な利用、フィールド調査によって深化させようと考えた。

（2）国家の制度と社会構造に対して、地方統治のシステムと運営の実態を解明するため、文書による情報伝達（文書逓伝、文書伝達、情報処理）と人の往来という視点を導入した。これは秦漢簡牘の年代・地域の差異や、材質・形態・書式・内容の違いに対して、これまで注目されることが少なかった情報処理の機能から地方行政の運営を探る視点である。このような着想は、愛媛大学の平成 17 年度～19 年度研究開発支援経費・特別推進研究「古代東アジアの出土資料と情報伝達」（代表：藤田勝久）、平成 20 年度～22 年度「東アジアの出土資料と情報伝達の研究」（代表：藤田勝久）が基礎となっている。ここでは中国と韓国、日本古代の出土資料の機能と、情報伝達の原理を比較する国際共同研究を進めてきた。この成果の一部は、藤田勝久・松原弘宣編『古代東アジアの情報伝達』（汲古書院、2008 年）、同編『東アジア出土資料と情報伝達』（汲古書院、2011 年）、藤田勝久編『東アジアの資料学と情報伝達』（汲古書院、2013 年）として刊行した。本研究は、この共同研究の成果をふまえ、さらに秦漢地域社会研究を推進するものである。

２．研究の目的

本研究は、中国古代国家と地域社会の特質解明を進めるために、３つの方面から考察する。これによって、秦漢時代の国家と地域社会を総合的に位置づけ、モデル化の提示を目的とする。

（1）出土資料とフィールド調査の情報を積極的に取り入れ、『史記』『漢書』の再検討と史実の復元をする。

（2）戦国秦漢時代のなかで、主要な出土資料が発掘された長江流域と西北地域のフィールド調査をおこない、秦漢統一国家と出土資料の関係を地域性のなかで理解する。

（3）出土資料のなかでも行政文書のような地方行政の実態に関する資料を分析し、その情報技術を明らかにする。ここでは居延漢簡（旧簡）にくわえて、新しく公表が始まった里耶秦簡や、漢代の金関漢簡、懸泉漢簡を分析して、簡牘にみえる共通原理と地域性を明らかにする。これは制度史や文書行政という枠組をこえて、とくに国家と社会を結ぶ情報伝達というソフト面から中国簡牘の総合化を試みる点に特色がある。

３．研究の方法

（1）『史記』『漢書』にみえる史実の考証。従来は『史記』『漢書』の注釈と版本の考証や、史書と出土資料を使った歴史研究を進めている。本研究の代表者と連携研究者は、『史記』の史料が、どのような素材と編集によるものかを考察し、その史実を考証してきたが、さらに出土資料とフィールド調査による情報をくわえて、戦国秦漢時代の国家と地域社会を理解する。

（2）長江流域と西北地域のフィールド調査。秦帝国の制度は、戦国秦の制度を発展させたものである。そこで秦国の展開を３期に分けて考察する。第一段階は、春秋戦国時代に秦国の基礎を形成する過程。第二段階は、戦国中期の制度を秦の本拠地と占領地に展開してゆく過程。第三段階は、秦帝国の統治を全国に適用する時代である。漢王朝では、西方の本拠地に秦の制度を継承しており、睡虎地秦簡や張家山漢簡との比較によって研究されている。本研究では、戦国秦代の遺跡と、漢代シルクロード方面の敦煌懸泉置と肩水金関を中心に調査し、これによって戦国秦漢時代を通じた交通と地域社会を理解するモデルを提示する。

（3）情報伝達の視点による出土資料の考察。ここでは、情報伝達という新しい視点を導入する。①従来の研究では、居延漢簡（旧簡）を主体として、国家と辺境施設の文書行政にみえる木簡の書式や内容を考察してきた。しかし同じ地域の交通上の施設から出土した懸泉漢簡、金関漢簡によって、情報伝達（文書逓伝、文書伝達、情報処理）の原理・規格（format）がわかるようになった。これは木牘の表裏に記された里耶秦簡とあわせて、簡牘の機能を積極的に利用するものである。このような統治システムは、これまで史書や秦漢時代の木簡では知ることに制約があった。本研究では、文字のメッセージを伝える情報伝達という視点から、広く簡牘の用途を総合的に考察する。②情報伝達という視点は、法制史や文書行政、木簡の形態・書式の分類を一歩進め、出土した地域の相違や、書写媒体の変化にかかわらず、簡牘の機能を一貫して理解することが可能となる。本研究では、情報処理の記載がある木簡・木牘や、単独で使用される通行証、付札などに注目して、秦漢時代の地方統治と交通システムを理解する。

４．研究成果

2012 年度：

（1）『史記』『漢書』の史料研究と史実の考証を進め、その成果を国内外の学術論文、国際学会、研究会で公表した。
（2）８月 20 日～31 日に湖北・湖南省の実地調査を行った。参加者は、藤田、李開元、畑野吉則の３人である。この調査では、武漢大学簡帛研究中心との交流、里耶秦簡が出土した里耶古城と秦代洞庭郡の県城・交通路を調査し、長沙市にある里耶秦簡、岳麓書院所蔵秦簡、前漢・後漢時代の簡牘について実見と知見を得た。
（3）『里耶秦簡・壹』『里耶秦簡牘校釈（第一巻）』の分析をすすめ、情報処理に関する用語一覧を準備した。また里耶秦簡の文書伝達・情報処理の方法を考察し、秦帝国に通じる情報伝達の機能を指摘した。
（4）12 月８日に愛媛大学で公開講演会「始皇帝と秦帝国」を開催した。報告の題目は、藤田勝久「秦帝国と里耶秦簡」、李開元「『史記』秦始皇本紀の構造について」、畑野吉則「里耶秦簡の郵書記録と文書伝達」、呂静「里耶秦簡から見た秦代の行政文書システム」、鷹取祐司「里耶秦簡に見える秦人の存在形態」である。

2013 年度：
（1）『史記』『漢書』の考証では、李開元『楚亡－従項羽到韓信』（2013 年５月）を刊行した。
（2）８月 18 日～31 日まで、韓国ソウル大学校で研究会を開催した後、甘粛省金塔県で開催された「居延遺址与絲之路歴史文化国際学術研討会」に出席し、その前後に蘭州、嘉峪関、酒泉、エチナ河流域の調査と、漢簡の実見調査を行った。
（3）里耶秦簡の分析と用語一覧の整理を継続した。また新しく公刊された肩水金関漢簡、懸泉漢簡の分析を進め、交通システムと文書伝達・情報処理の方法を考察した。2014 年３月には、藤田と畑野吉則は、台湾の中央研究院歴史語言研究所を訪問し、情報処理に関する居延漢簡の実見調査をした。
（4）11 月 16 日に愛媛大学で公開講演会「中国の文字資料と社会」を開催した。報告の題目とコメントは、藤田勝久「中国古代の文字資料と情報技術」、陳松長「秦漢時期の繇と繇使」、金慶浩「二千年前　楽浪古墳から発掘された簡牘資料」、畑野吉則「漢代の下級部署における日常業務と情報処理」、金秉駿「コメント」、廣瀬薫雄（通訳）である。

2014 年度：
（1）『史記』『漢書』の考証では、藤田『史記秦漢史の研究』(2015 年２月）を刊行した。
（2）８月 16 日～18 日まで成都で開催された中国秦漢史研究会の国際シンポジウムに出席した後、19 日～27 日まで四川省、甘粛省、陝西省の早期秦文化の遺跡、都城と古墓、秦封泥、漢長安城などの調査を行った。これは 2012 年度の長江流域、2013 年度の西北遺跡につづいて、早期秦文化と秦漢遺跡の調査を追加したものである。
（3）里耶秦簡の分析と用語一覧と、肩水金関漢簡・懸泉漢簡の分析を継続し、交通システムや文書伝達・情報処理の方法について整理した。
（4）12 月 13 日に愛媛大学で「中国資料学国際シンポジウム」を開催した。報告の題目は、藤田勝久「資料学からみた中国古代国家と社会」、若江賢三「『管子』の資料学」、大西克也「清華簡『繫年』の地域性に関する試論ら」、蒋非非「秦統一後の法令「書同文字」について」、呂静「秦簡所見私人書信之考察」、李周炫「秦漢代財政における賦銭」、畑野吉則「秦漢時代の文書逓伝と情報処理」、金秉駿「楽浪郡東部都尉地域辺県の研究」である。

最終年度の研究総括：
（1）『史記』『漢書』の考証では、出土資料との比較分析と、司馬遷の旅行による見聞、漢代の人びとの口承との関係を考察した。またフィールド調査による『史記』の史料研究によって、戦国秦漢時代の国家と地域社会の史実を指摘した。
（2）研究成果報告書『里耶秦簡・西北漢簡と実地調査による秦漢地域社会の研究』（全 96 頁、実地調査の写真入り）を発行した。目次は、以下の通りである。「研究プロジェクトの概要」、藤田勝久「戦国秦の国家形成と郡県制－2014 年の現地調査」、李開元「始皇帝第一次巡遊到西県祭祖説」、藤田勝久「秦漢簡牘と里耶周辺の調査ノート－2012 年の現地調査」、藤田勝久「漢代疏勒河流域とエチナ河流域の交通遺跡－2008,2011,2013 年の現地調査」、畑野吉則「中央研究院歴史語言研究所の居延漢簡調査－2014 年の調査」。
（3）出土資料の分析とフィールド調査では、戦国秦と秦代に成立した郡県制と情報伝達のシステムが、漢王朝の西方本拠地に継承され、武帝期には辺郡にも適用されるため、この領域範囲では公文書の簡牘にみえる情報処理の原理が一致することを明らかにした。また秦漢時代の郡県制の実態について、地方行政の運営と交通システムの特徴を指摘した。
このように簡牘の機能と情報伝達に注目する研究は、漢代以降の中国と東アジアの韓国、日本古代の国家形成と簡牘を比較する際にも、一つの方法として意義をもつと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 24 件）

① 藤田勝久、《史記》的年代学与清華簡《楚居》《繫年》、『史林揮塵－紀念方詩銘先生論文集』、査読無、上海古籍出版社、2015、pp.21－42

② 藤田勝久、里耶秦簡の交通資料と県社会、『愛媛大学法文学部論集』人文学科編 37、査読無、2014、pp.１－30
③ 藤田勝久、肩水金関と漢代の交通－伝と符の用途、『愛媛大学法文学部論集』人文学科編 36、査読無、2014、pp.１－36
④ 藤田勝久、『史記』陳渉世家のフィールド調査、『愛媛大学人文学会人文学論叢』15、査読無、2013、pp.27－39
⑤ 藤田勝久、《史記》的編集和漢代伝説－鴻門宴与《楚漢春秋》、」『第四届中国古文献与伝統文化国際学術研討会会議論文滙編』香港理工大学、査読無、2013、pp.327－337
⑥ 藤田勝久、中国簡牘の文書・記録と情報伝達、『東アジアの資料学と情報伝達』汲古書院、査読無、2013、pp.５－44
⑦ 藤田勝久、里耶秦簡所見秦代郡県的文書伝遞、武漢大学簡帛研究中心：『簡帛』第８輯、査読有、2013、pp.179－194
⑧ 藤田勝久、『史記』の年代学と清華簡『楚居』『繫年』、『愛媛大学法文学部論集』人文学科編 35、査読無、2013、pp.１－33
⑨ 藤田勝久、里耶秦簡と出土資料学、渡邉義浩編『中国新出資料学の展開』、汲古書院、査読無、2013、pp.181－197
⑩ 藤田勝久、肩水金関与漢代交通－伝与符之用途、『居延遺址与絲之路歴史文化国際学術研討会論文集』上冊、中国甘粛省金塔県、査読無、2013、pp.153－170
⑪ 藤田勝久、始皇帝と里耶秦簡」、『資料学の方法を探る』12、査読無、2013、pp.１－14
⑫ 藤田勝久、秦漢簡牘と里耶周辺の調査ノート、『資料学の方法を探る』12、査読無、2013、pp.85－106
⑬ 藤田勝久、『史記』の編集と漢代伝承－「鴻門の会」のエピソード、愛媛大学「資料学」研究会編『歴史の資料を読む』、創風社出版、査読無、2013、pp.78－97
⑭ 藤田勝久、里耶秦簡にみえる秦代郡県の文書伝達、『愛媛大学法文学部論集』人文学科編 34、査読無、2013、pp.１－25
⑮ 藤田勝久、漢代檄的伝達方法及其功能、『甘粛省第二届簡牘学国際学術研討会論文集』、上海古籍出版社、査読有、2012、pp.45－66
⑯ 藤田勝久、秦代的軍事編制成與兵種－秦始皇陵兵馬俑與地方軍、『一統天下：秦始皇帝的永恒国度国際学術研討会論文集』、香港歴史博物館、査読有、2012、pp.191－198
⑰ 藤田勝久、漢代交通与金関漢簡的伝、『簡帛』第７輯、武漢大学簡帛研究中心、査読有、2012、pp.193－209
⑱ 藤田勝久、漢代黄河の水害とその対策、愛知大学現代中国学会編『中国２１』37、査読無、2012、pp.39－60
⑲ 藤田勝久、漢代簡牘的文書処理与『発』、黎明釗編『漢帝国的制度與社会秩序』Oxford University Press(China) Limited, Hong Kong、査読有、2012、pp.207－246
⑳ 藤田勝久、中国古代の情報伝達と戦略－項羽の事績をめぐって、松原弘宣・水本邦彦編『日本史における情報伝達』、創風社出版、査読無、2012、pp.259－283
21 李開元、論歴史敘事中的合理構築－文学比史学更可信？、『現代伝記研究』第二輯、上海交通大学伝記中心、査読無、2014、pp.101－119
22 李開元、『史記』秦始皇本紀の構造について、『資料学の方法を探る』12、査読無、2013、pp.15－30
23 李開元、解構『史記・秦始皇本紀』－兼論３＋N的歴史学知識世界、『史学集刊』141、吉林大学、査読無、2012、pp.48－58
24 李開元、韓信反攻関中的路線與武都大地震－為了歴史叙述的歴史研究、北京大学中国古代史研究中心編『輿地・考古与史学新説』、中華書局、査読有、2012、pp.225－235

〔学会発表〕（計 16 件）
① 藤田勝久、戦国秦の国家形成と郡県制、韓国ソウル大学校東洋史学科、「『史記』秦史記録再検討」国際学術討論会、2014.11.20
② 藤田勝久、里耶秦簡的交通資料与県社会、アメリカ・シカゴ大学、中国簡帛学国際論壇 2014、2014.10.25
③ 藤田勝久、漢代的檄与詣官・派遣之用途、中国四川省成都、中国秦漢史研究会第 14 回年会暨国際学術研討会、2014.８.17
④ 藤田勝久、在日本『史記』年代学研究、韓国成均館大学校、「東亜的古文献流通和文化交流」学術研討会、2014.８.17
⑤ 藤田勝久、《史記》的編集和漢代伝説－鴻門宴与《楚漢春秋》、香港理工大学、中国古文献与伝統文化国際学術研討会、2013.12.13
⑥ 藤田勝久、肩水金関与漢代交通－伝与符之用途、中国甘粛省金塔県、居延遺址与絲之路歴史文化国際学術研討会、2013.８.24
⑦ 藤田勝久、中国古代史と簡牘研究、韓国ソウル大学校東洋史学科、学術討論会、2013.８.20
⑧ 藤田勝久、従里耶秦簡来看秦代郡県文書伝達、中国簡帛学国際論壇 2012：秦簡牘研究、武漢大学簡帛研究中心、2012.11.18
⑨ 藤田勝久、秦代的軍事編制成與兵種－秦始皇陵兵馬俑與地方軍、香港歴史博物館、International Conference on The First Emperor of China、2012.10.７
⑩ 藤田勝久、里耶秦簡と出土資料学、東京、東方学会：第四回日中学者中国古代史論壇「中国新出資料学の展開」、2012.５.25
⑪ 李開元、秦始皇第一次巡遊到西県祭祖説、

韓国ソウル大学校東洋史学科、「『史記』秦史記録再検討」国際学術討論会、2014.11.20
⑫ 李開元、項羽攻斉和奇襲彭城的路線－兼論楚軍彭城大勝的原因、中国四川省成都、中国秦漢史研究会第14回年会暨国際学術研討会、2014.８.17
⑬ 李開元、文学比史学更可信？－歴史学的合理構築與表現歴史的不同文体、中国復旦大学歴史系、2013.10
⑭ 李開元、論人物伝記中的合理構築－以“侯公説項羽”為例、上海交通大学、華人伝記與当代伝記潮流国際学術討論会、2013.10
⑮ 李開元、従居延漢簡看漢代的社稷祭祀、中国甘粛省金塔県、居延遺址与絲之路歴史文化国際学術研討会、2013.８
⑯ 李開元、古代口述史学的経典－再讀『史記』項羽之死、中国陝西省韓城市、司馬遷伝記文学国際学術討論会、2012.10.26

〔図書〕（計４件）
① 藤田勝久　他、創風社出版、『里耶秦簡・西北漢簡と実地調査による秦漢地域社会の研究』2015、96
② 藤田勝久、汲古書院、『史記秦漢史の研究』、2015、660
③ 藤田勝久　他、汲古書院、『東アジアの資料学と情報伝達』、汲古書院、2013、360
④ 李開元、台北聯経出版、『楚亡－従項羽到韓信』、2013、432

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
藤田　勝久（FUJITA, Katsuhisa）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：１０１８３５９２

(2)研究分担者

(3)連携研究者
李　開元（Li, Kaiyuan）
就実大学・人文科学部・教授
研究者番号：６０３１２１３８

(4)研究協力者
陳　偉　（CHEN, Wei）
中国武漢大学・簡帛研究中心・教授
陳　松長（CHEN, Songzhang）
中国湖南大学・岳麓書院・教授
呂　静　（LU, Jing）
中国復旦大学・文物与博物館学系・教授
蒋　非非（JIANG, Feifei）
北京大学・歴史系・教授
張　俊民（ZHANG, Junmin）
中国甘粛省文物考古研究所・副研究員
邢　義田（XING, Yitian）
台湾中央研究院歴史語言研究所・研究員
金　慶浩（KIM, Kyungho）
韓国成均館大学校・東アジア学術院・教授
金　秉駿（KIM, Byungjoon）
韓国ソウル大学校・東洋史学科・教授
李　周炫（LEE, Joohyun）
韓国ソウル大学校・東洋史学科・博士課程
鷹取　祐司（TAKATORI, Yuji）
立命館大学・文学部・教授
大西　克也（Onishi, Katsuya）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
畑野　吉則（Hatano, Yoshinori）
関西大学大学院・博士課程